



Sendai Christian Alliance Disaster Relief Network

Touhoku HELP

News Letter No.5 資料

index

PETITION TO PUBLIC ISSUES COMMITTEE — Towards a Nuclear-free World	P1
“原発訴訟”と“祈り”の要請	P3
"WEA・国際ローザンヌなどとのネットワークを構築しなければならない"	P4
張允載教授の講演	P5
世界の教会「一致」に向けた陣痛	P5
「正義」と「一致」を主題とした全体会議	P6
6日(水)の日程が終了	P7
WCC釜山総会世界教会、朝鮮半島の非核化・平和体制促す	P7
WCC準備委員会代表大会長朴大統領を支持し、国連の対北経済制裁に賛成を表明	P8
WCC宣教分科会長「宗教多元主義の疑惑は誤解」	P9
「我々WEAは、WCCとの協力関係にある」	P11
東北ヘルプ事務局より、世界福音同盟執行部への手紙	P12
アジアと宗教の可能性	P13

PETITION TO PUBLIC ISSUES COMMITTEE — Towards a Nuclear-free World

公共課題検討委員会への請願書:核から解放された世界に向けた声明を求めて

訳者註:本請願書は、2013年10月31日から釜山にて開催された第10回世界教会協議会(WCC)総会内の故郷課題検討委員会(Public Issues committee)へ提出されたものである。このWCCにおいて、日本・韓国・台湾からのWCC参加者を中心に、「釜山ネットワーク・カフェ」が形成された。この自発的集まりが、この請願を作成し、署名を集める主体となった。以下、その全文を翻訳する。

北東アジアにおいて行われるこの総会には、特別な義務が課せられている。その義務とは何か。それは、世界が核エネルギーへの依存を高めることに反対を表明することであり、また、核兵器を二度と使ってはならないということを実際の事柄として確認することである。1945年に日本で原子力爆弾が投下されて以来、今日に至るまで、核の爆発と核施設の事故を巡る脅威は高まっている。その脅威は、取分けこの北東アジア地域で、世界中のどの地域よりも、昂進しているのである。WCCの課題が神の民の正義と平和といのちを保障することに置かれている以上、ここに喫緊の行動を呼びかけ力を結集しなければならないと思わされる次第である。

福島原発から生まれた深刻な状況を想起しよう。抑えきれない程の放射能があり、環境のシステムは破壊されつつあり、海洋の生命は殺されつつある。今我々は、チェルノブイリ以来最悪となる核の惨劇を厳しく突き付けられている。加えて我々は、原発そのものが事故を起こしやすいものだということを想起したい。それは日本であれ、その近隣諸国である韓国や台湾であれ、世界中の原発について言えることである。実に世界各国で、核エネルギーへの依存を疑問視する声は高まっている。その疑問とは、核エネルギーは我々の現在にとって致命的な脅威であって、我々の子孫に残すことが許されないものなのではないか、という疑問である。

ここに我々はWCCに対し「核エネルギーについては、核兵器と共に、これを徹底して廃棄しなければならない」という立場をとるよう、呼びかけたい。これはかつてWCCがしてこなかったことである。生命と被造世界を脅かす双子の脅威がある。多くのキリスト者と仏教者が、原発から脱却することと再生可能なエネルギー源を確保することとを熱望しつつ、金輪際核兵器が使用されないことがないように、核の廃絶を強く望んでいる。間違いなく、いよいよ多く

の人々が、核から解放された世界に生きていたい願っているのである。

本日、ここに我々は集まった。それは我々がひとつのことを証言するためである。つまり、それぞれの地域における政府と市民社会において、国連において、教会等の信仰者の共同体において、あるいは赤十字社運動において、核兵器の合法性そのものが、結局のところ、深刻に問われているということ、我々は証言しようとしている。化学兵器、生物兵器、あるいは地雷は、既に人類の国際法の下、禁止された。しかし、これらは皆、核以外の大量破壊兵器である。実に、あらゆる大量破壊兵器に勝って破壊的で無差別な兵器—即ち、核兵器—は、未だに禁止されていない。ヒロシマから70年も経った今日に至ってなお、なぜ、核兵器は合法であり得るのか。このことを、国際社会は問わねばならない。そして更に、我々は問わねばならない。欧州および“ここ”アジアの主要国は、現在もなお、米国の核兵器による保護下にある。これはなぜなのか。この問いを投げかけることもまた、我々の課題であるはずなのだ。

こうしたことに鑑み、本総会において、核から解放された世界を求める声明文が採択されなければならないと考える。本総会は、核兵器の廃絶と核エネルギー生産からの脱却を目指し、この時を核の課題を直接に取り上げる好機として確保しなければならない。我々を正義と平和に導き給う生命の神は、核という全生命に対する脅威から、私たちを解き放ち給うことだろう。

(了)

2013年10月31日・請願受付期間中の付記：以下の通り、24の加盟教会から53の代議員が本請願書に署名した。他の教会も同様の課題を個々に担い語り合っている。

2013年1月16日の付記：公共課題検討委員会への請願提出期限において、32の加盟教会から85の代議員が本請願に署名をし提出した。その結果、本請願は全代議員による審議を経て受理された。WCC本会議はこの請願に基づき声明文を作成し、代議員による審議の結果、2014年7月に行われるWCC中央委員会において採択の可否が決定することとなった。

Rev. Mizuo Ito	United Church of Christ in Japan
Rev. Renta Nishihara	Anglican Episcopal Church in Japan
Rev. Baekki Heo	Korean Christian Church in Japan
Rev. DrHong-Jung Lee	Presbyterian Church of Korea
Rev. Dr. Unha Chai	
Rev. Gwangjoon Kim	Anglican Church of Korea
Rev. Tae JinBae	Presbyterian Church in the Republic of Korea
Rev. DrSangChang	
Rev. Yong Kyu Kang	
Rev. Ho-Suhk Suh	Korean Methodist Church
Ms. Eun-Young Lee	
Rev. Heung-Joo Ryu	
Rev. Dr. Hyun JuBae	Presbyterian Church of Korea
Ms. Hanbeet Rhee	
Rev. Dr. Daniel Na	Ecumenical Patriarchate, Republic of Korea
Sister Agathi	
Ms. Ya-Chi Yang,	Presbyterian Church in Taiwan.
Rev. Dr. Yang-en Cheng	
Rev. Supina Nakaisulan	
Mr. Chen-Hsiang Lien	
Father Rex R B Reyes, Jr.	Episcopal Church in the Philippines
Rev Dr. Henrietta Hutabarat- Lebang,	Toraja Church, Indonesia
Dr. Deepa Choudhrie,	United Evangelical Lutheran Church of India
Dexter Maben,	Church of South India
Reeta Sweetin	
Bishop Samuel Azariah,	Church of Pakistan
Emily Colgan	Anglican Church of Aotearoa, New Zealand and Polynesia
Bardia Robert Matiu	
Dr. Arapera Bella Ngaha	Methodist Church of New Zealand
Rev Diana Tana	
Emily Evans	Uniting Church of Australia
Samuel Dali,	Church of the Brethren, Nigeria
Rev. Prof. Kanyinsola Ajayi	Methodist Church, Nigeria
Archbishop Michael Stephen Kehinde	
Archbishop Bernard Ntahoturi,	Anglican Church of Burundi
Nestor Friedrich	
Katilene Labes,	Evangelical Lutheran Church in Brazil
Iara Muller,	

Thomas Kang,

Nathan Hosler
Michael L. Hostetter
Stanley Noffsinger

Church of the Brethren, USA

Rev. Matthew A. Laferty
Charlene Youngsook Kang
Sally Dyck
Bp. Mary Ann Swenson
Cynthia Kent

United Methodist Church (All 10 UMC delegates from around the world)

Ivelisse Quinones
Rebecca Ilunga
John L. McCullough
Haley Knapp

United Church of Christ, USA

[not listed here + 31 other delegates from 8 other member churches]

“原発訴訟”と“祈り”の要請

日本からの対照的な活動

「国民日報」2013.11.06 <http://p.tl/C64I>

在日韓国人 2 世 チェスング (68) アジア非核化行動日本支部 (NNAJ) 事務局長は、福島原子力発電所の爆発事故以来、ゼネラル・エレクトリックなどのメーカーを相手にした訴訟を準備中だ。

6 日 WCC 釜山総会が開かれたベクスコ・コンベンションホール「Madang」で彼は、参加者に訴訟団への参加を呼びかけ、忙しく時間を過ごしていた。

日本の神奈川県川崎市にある招待キリスト教会員のチェ事務局長は、「日本の原発賠償法のメーカーの免責事項があることを知った後、訴訟を構想するようになった」と話した。彼は原発メーカーが爆発などの原発事故に責任を負うことを求め、事故の可能性を下げるために努力することを期待する訴訟を準備している。現在、日本人 300 人と台湾人 2000 人余りが訴訟団に参加したという。韓国では、核グリオン（核のない世界のための韓国キリスト者連帯）を中心に、訴訟人団を募集している。目標は 1 万人であり、必要とされる賠償額は 1 人当たり 100 円（約 1000 ウォン）だ。金銭的賠償のための訴訟ではなく、メーカーの責任ある態度を求めるための象徴的な意味をもった訴訟である。チェ事務局長は「私たちの運動の究極の目標は、環境にやさしいエネルギーに転換し、神が造られた世界を元の姿に保存し後世に伝えることだ」と語った。

福島被曝者を支援するために、仙台地域の教会者たちが結成した「東北ヘルプ」もまた、「MADAN」で展示を行っていた。

東北ヘルプは、今回の総会で南太平洋地域被曝者と出会った。事務局長川上直哉牧師 (40) は、「展示の準備をしながら、ニュージーランドの教会と出会った中で、南太平洋で行われた原爆実験による被曝被害が凄まじい、という話を聞いた」とし、「そこでは、福島のような状況が 40 年前から起きていたことを知り、衝撃を受けた」と伝えた。

川上牧師は「逆説的だが、これまでの日本社会で影響力が少なかった日本の教会は、2011 年の地震をきっかけに、重要な役割を担うこととなった」とし、「世界の教会が日本の教会を助けてくれたように、私たちも、南太平洋などの核実験の被曝者たちと心をつかち合いたい」と話した。その上で彼は、「運動よりも重要なのは、祈りだ」と強調し、「韓国教会の聖徒たちの祈りをこそ、求めたい」と何度も強調した。

釜山 = チェスンウク記者 applesu@kmib.co.kr

"WEA・国際ローザンヌなどのネットワークを構築しなければならない"

エキュメニカル・カンヴァーセッション報告

「国民日報」2013.11.07 22:02 <http://p.tl/tNqA>

WCC 釜山総会内では様々なテーマに分かれて継続的な対話を積み重ねる「エキュメニカル・カンヴァーセッション」が開催された。参加者たちは、この対話によって、WCCと世界福音同盟（WEA）や国際ローザンヌ福音運動（ローザンヌ運動）などの間でネットワークを構築し、そのネットワークにペンテコステ系の諸教団も積極的に参加できるような配慮をしなければならない、という要求を提出した。

21のテーマで行われた「エキュメニカル・カンヴァーセッション」は、全世界の教会が直面している問題を議論するために、総会代議員だけでなく一般の参加者にも参加を呼びかけて、毎日一時間半ずつ4日間行われたプログラムである。エキュメニカルなコンセンサスがここに醸成されるため、今後WCCの方針に重要な影響を及ぼすことになる。WCCプログラム委員会がエキュメニカル・カンヴァーセッションの報告書を作成し、本会議がこれを採択することになれば、WCC中央委員会がフォローアッププログラムを推進する。

11月7日にWCCプログラム委員会が作成した報告書によると、21のテーブルトークが「教会一致と教会の役割」「正義・平和」「宣教」「教育・霊性」「女性」「奉仕」の6つの分野で行われた。

「教会の一致」分野への参加者は、WCCに加盟している各教会が移住・紛争・経済不安・気候変動の問題に対応して正義と平和を追求し、創造の秩序維持に注力するために、よりオープンで柔軟性の高いネットワークが必要だとする要請をまとめた。そして、そのために、WCCがWEA、グローバルクリスチャンフォーラム、国際ローザンヌ、ペンテコステ派教会、カリスマ主義教会、独立教会などに対して開放的な姿勢を示し、積極的な協力関係を構築して神学的対話を展開すべきだとした。

「正義・平和」の分野への参加者は、神学校と聖職者たちによって、世界の教会が直面している問題に対して排他主義的な姿勢を越える代案を提示することができるはずだ、と述べた。特に、気候変動・生態系に関する正義・暴力と武器・貪欲な国際金融・人身売買・移住労働者と無国籍者への人権蹂躪、迫害される教会、等の問題について、道徳的な分別を弁えることができるように人々を

訓練すべきだと強調した。朝鮮半島問題では停戦協定を平和協定に変え、韓半島周辺の強大国が統一のために貢献しなければならないと促し、南北の教会の出会い、離散家族の再会を求めた。中東問題を解決するために、極端な立場を避けつつ反イスラム的偏見を拒否すること、そして非暴力抵抗運動を展開することが大切であると結論づけた。そして参加者たちは、WCC第11回総会を中東地域で開催することを要請した。

「宣教」を主題とした議論においては、「伝道」と「平和・正義」の関係を議論し、新たな弟子像を確立することを求めた。

「教育・霊性」を主題とした議論においては、健全なエキュメニカル指導者を養成するために、男女の若者すべてに高水準の神学教育を施し、学習困難な地域により多くの奨学金を支給して支援すべきだと結論付けた。

「女性」を主題とした議論においては、女性のリーダーシップ能力育成に注力する一方、性的不平等故に悪化しているエイズの問題や性暴力等、様々な性の不平等の問題を丁寧に取り扱わなければならないことを強調した。

「奉仕」を主題とした議論においては、より緊密なエキュメニカル・ネットワークを構築する必要性が提起された。

朴成国 WCC 総会支援局長は、「これらテーブルトークの内容は、WCCが今後の方針を決定し、事業を進める上で重要な基礎資料となる」とし「今回の総会で、中東と定義・平和の問題が集中的に浮き彫りにされた。今後、WCC事業がそちらへと集中することとなるだろう」と説明した。

釜山 = ベクサンヒョン記者 100sh@kmib.co.kr

張允載教授の講演

韓半島の平和・非核化の演説に大きな拍手

「国民日報」2013.11.08 17:53 <http://p.tl/6pcX>

WCC 釜山総会の最後の全体会議が開かれた 11 月 7 日の講演で、張允載＝ジャンユンジェ梨花女子大学キリスト教学科教授（51 歳・写真）は、スピーチの間に、「しばらく火を消してくれ」と要請した。真っ暗になった会場で、ステージの真ん中の小さなキャンドルが点灯される。ジャン教授は「この小さな私の光」というゴスペルを英語で歌い始める。

This little light of mine

この小さな私の光

I'm gonna let it shine

この輝きのような私でいたいな

参加者たちは大きな声で、リフレインする「レット・イト・シャイン (let it shine)」を歌った。歌を終えた後、張教授は、朝鮮半島の平和と非核化、環境保護をテーマにした講演を続けた。途中、大きな拍手が起こった。

釜山総会全体会議で韓国人としては唯一の演説をしたジャン教授は、8 日、国民日報とのインタビューで、「私

が提示した課題を信仰的議題として受け入れてくれた拍手に思えた」と感謝して語った。

WCC 韓国準備委員会企画委員会幹事である彼は、釜山総会で議論された「正義と平和」というテーマに、韓国の分断状況などを反映したことで、大きな意味を付与した。「総会のテーマとしては、これまでヨーロッパの教会が主導する中で、しばしば一致 (unity) というテーマが取り上げられていました。しかし他方で、いくつかの分科会を除いて、WCC 全体でこの問題を扱ったことはありませんでした。今回の大きな成果は、韓国とアジアの教会の現実を扱わなければならないという我々の提案が、WCC 全体に受け入れられたことです」

チャン教授はまた、「原子力発電に使われる燃料棒は永久的な処分が困難な場合だけでなく、福島原発事故のような大惨事を引き起こす可能性がある」とし、「神の創造の世界を汚染させ、後世に伝えることを止めることはできないのだろうか」と強い調子で語った。

釜山＝ギムギョンテク記者 (ptyx@kmib.co.kr)

世界の教会「一致」に向けた陣痛

一致声明採択延期 11 月 6 日再議論へ

「国民日報」2013.11.05 21:52 <http://p.tl/L2UP>

世界教会協議会 (WCC) は 11 月 5 日、釜山 BEXCO 会場で、教会一致の声明の採択問題について議論したが、正教会はドラフトに問題を提起し、採決は延期された。声明は生みの苦しみを経験している。声明は 6 日に再議論されて採用される可能性が高いと予想される。

「神の贈り物と一致への召し、そして私たちの献身」というタイトルの声明草案は、「異なる伝統を持つクリスチャンの正義と平和のために奉仕・連帯するのは、神の恵み」と明記し、「教会は分裂し共に一つの聖餐式を行うことができない状況にあるため、その代わりとして、キリストの礼拝と共同の生活、聖餐式的友情をもって、我々は目に見える一致を成し遂げなければならない」と強調している。この表現に対して、正教会の側から教会の職制と聖礼典の問題

を提起して採用が延期された。これに関連し、総会準備会長のバクジョンファ牧師は「正教会が提起した問題は、現実の問題ではなく、神学的な案件」としながら「礼典を重視する正教会とは、形式的な面に微妙な違いがあるが、それは大きな問題ではない」と説明し、「6 日には一致声明に合意がされるものと見られる」との展望を披瀝した。

今回の草案は、昨年 9 月の信仰と職制委員会が決定した「教会一共同のビジョンに向けて」という文書に基づいている。教会の一致は 1961 年にインド・ニューデリー総会以降継続的に議論された WCC の主要な関心事である。「教会の地理的な多様性の中の一致」を皮切りに、「共同体性・教会の更新・共同ミッションとしての一致」等を強調してきた。

夕方の会議では、釜山総会を総括するようなメッセージ

を含むある草案が公開された。その草案とは、朝鮮半島の平和と創造の世界の保全、正義・平和・生命の重要性を強調したものであった。

同じ会議において、財務委員会の報告もなされた。その報告によると「今年のWCCの総収入が3090万スイスフラン（35億9280万円）で、2006年より31%減少した」という。財務委員会の関係者は「メンバーの分担金の削減と共に、世界的な金融危機でスイスフランが急激に低下したため」と説明した。

午前中に行われた「一致」を主題とする全体会議でメアリー・タナー前WCCのヨーロッパ代表の共同会長は、「クリスチャンの一致は、分裂した教派を一つにまとめることにとどまらず、様々な人種や文化などを超えて聖餐の交わりと

礼拝、共同の奉仕、救いの福音をあかしとの共同ミッションを達成することにある」と明らかにした。ルーマニア正教会の司教は、「一致を見つける旅路を通して、我々は、懐疑主義・落胆・敵対心を克服し、苦しんでいる人々のために祈り、平和的な解決策を見つけなければならない」と述べた。世界バプテスト連盟（BWA）総幹事は「様々な教会が存在しているこの世界に、自分と同じ教会だけを求めようとする。そうした姿勢に、教会の中でさえ人種差別が頭をもたげていることが分かる」と指摘した。同氏は、「貧困と搾取、病気という世界的な状況を改善するためには、教会がその自己中心性を抜け出さなければならない」と語った。

釜山 = シンサンモク ベクサンヒョン記者
smshin@kmib.co.kr

「正義」と「一致」を主題とした全体会議

「祈りだけでは正義は実現されない」
「一致・正義・平和のために奉仕し連帯する」

「国民日報」2013.11.06 21:37
<http://p.tl/BqQb>

WCC総会が6日、「教会の一致」と題した声明を採択した。

一致の声明は前日採択される予定であったが、正教会の代表者らが神学的な問題を提起して一日延期された。声明では、異なる伝統を持つクリスチャンたちが正義と平和のために奉仕し、連帯することは、神の恵みであり、教会は、神が創造された世界で預言者の使命を果たさなければならないという内容を盛り込んだ。代議員は声明を採択し「ここに込められたビジョンと挑戦的コミットメントにWCCのメンバー教会が答えなければならない」と励ました。

この採択に先立って午前が開かれた全体会議は、「正義（Justice）」をテーマに扱った。講演を行った南アフリカの牧師は、「正義のための行動は、選択が重要だ」と言い「祈りだけだと正義は実現されない。正義が実現するためには、行動しなければならない」と述べた。

神の正義が実現されるべき具体的な現場も紹介された。海面上昇で水没の危機に追い込まれた南太平洋の島国ツバル、経済危機に陥ったギリシャ、アフリカのエイズ問題が次々と舞台に登場した。

ツバルの牧師は、「気候変動は私たち自身に起因するも

のではなかったが、私たちは生態系の危機の最大の被害者になった」とし、「同情ではなく、連携を」と強調した。

アフリカ・マラウイ共和国の牧師は、「エイズは神の罰ではなく、単なる病気だ」としながら「教会は、すべての誤解を取り除くことで、治療に貢献して欲しい」と訴えた。続いて社会（差別・疎外・性）・経済・生態系の3つの領域で正義がどのように破壊されているかについて、WCCの神学的な視点が提示された。即ち、自然の乱用・弱者の貧困・性差別・人権侵害などは、支配と成長という「欲の論理」とらわれた現代文明の帰結である、とする視点である。

正義への関心は、WCCの核心的価値である。WCCは、教会の社会参加を導き出した。このことは、個人の救いを強調してきた福音主義諸教会とは区別されるWCC的エキュメニカル運動の特性となった。そうした特性を生かし、これまでにWCCは、南アフリカの人種差別と戦い、世界中の女性が直面している強姦と性奴隷問題の解決を促し、そして、韓国の民主化にも貢献した。

釜山 = シンサンモク記者 smshin@kmib.co.kr

6日(水)の日程が終了

WCC中央委員、韓国からは一名だけが選出

「国民日報」2013.11.06 21:36 <http://p.tl/IBk9>

世界教会協議会（WCC）は11月6日（水）の日程を終えた。ベヒョンジュ釜山ジャンシン大学教授（52）が、世界教会協議会（WCC）中央委員に選出された。前日保留された「教会の一致」声明は採択された。また、朝鮮キリスト教連盟カン・ミンチョル委員長からの書簡も公開された。

WCC 総会代議員は釜山 BEXCO 会場で特別会合を開き、韓国の教会が推薦した候補者2人のうちベ教授を中央委員に選出した。150人の中央委員の推薦にあたる業務を担当した人選委員会は、当初、韓国の要求どおりベ教授とソ・ホク牧師（チョンチャンチョン教会）を候補とする修正案を上程した。西欧圏の代議員は「中央委員会の青年・女性の割合が低めであることを是正するためにも、当初の提案通り韓国代表は一名であるべきこと」を要求し、韓国代議員らが韓国教会から推薦した2名を選出するように求めた。両者の間の議論を経て、最終的に投票を行った結果、ベ教授だけが中央委員に選出され、ソ牧師は過半数の票を得られなかった。結果、韓国人の中央委員は1人に減った。中央委員に選出されたベ教授は「世界の教会が韓国教会にかける期待が上昇するこの時点で中央委員を務めることになり、聖なる負担と責任感を感じる」とし「韓国教会の偉大な伝統を携え、世界の教会がイエスの弟子としての教会としてのパートナーシップを回復するために、微力ながら働きたい」との所感を明らかにした。

中央委員会は、次期総会までに「声明の採択」「財政の運営」「総幹事の選出」「プログラムの進行」などの業務を担う。続いて代議員会は「朝鮮半島の平和と統一に関する声明」など三つの声明を議論した。前日に継続審議となった「教会の一致」声明と共に、三つの声明は採択された。

この日の夜の祈禱会は、「韓国教会と共に行う水曜礼拝」として公開された。今年103歳となる韓国人老牧師などがメッセージを伝えた。参加者は賛美を続け、大陸毎の祈りを朗読し、貧困や病気、戦争と暴力に苦しむ人々のために祈った。特に、韓国教会の祈禱方式での祈りによって大きな声で正義と平和を求めた。

この日の午前には、「正義」をテーマとした全体会議が開かれ、潘基文国連事務総長からの書面による祝辞が紹介された。潘事務総長は「宗教指導者たちは、多くの人々に大きな影響を与えることができ、自分の考えを変え、社会を変化させることができる」とし、「WCCのメンバーは、偏見と憎悪と戦うことができ、寛大さと信頼を作っていくことができる」と強調した。

釜山 = シンサンモクベクサンヒョン記者
smshin@kmib.co.kr

WCC釜山総会世界教会、 朝鮮半島の非核化・平和体制促す

「韓半島平和統一に関する声明」を採択

「国民日報」2013.11.07 22:11 <http://p.tl/Rxpl>

世界教会協議会（WCC）は7日、釜山市内「ベクスコ」を会場として総会を行い、「韓半島の平和と統一に関する声明」を採択した。声明には、朝鮮半島の非核化と平和体制を促すメッセージが入れられた。WCCは声明の中で「分裂・戦争・痛みは、満たされた命を望む神の御心と矛盾する」とし、「我々は世界の教会に、南北国民を再統一し和解させ、永続的で持続可能な正義の平和を追求するよう、要請する」と表明した。続いて、「韓半島の人間の

安全保障（Human security）は、軍事安全保障よりも優先されなければならない」とし、「核のない朝鮮半島が私たちの共通の希望」と強調した。また、「北朝鮮の持続的危機を考慮して、国際社会は、人道主義的支援と持続可能な開発プロジェクトの実行に乗り出さなければならない」と促した。

声明には、「教会の次元における南北協力の提案」や「政治的・国際的提案」など、11の勧告が含まれた。

「教会の次元における南北協力の提案」では、「1984年に平和統一の問題を議論した会議の精神の具体化」「平和統一のための祈祷週間の指定」「南北の若者の交流の機会の提供」「南北の教会訪問プログラム」「解放70周年記念事業としての南北信徒の出会い」などを提示した。

「政治的・国際的提案」では、「北朝鮮の経済・金融制裁の解除」「平和協定の締結」「軍事訓練の中止」「軍縮」「核兵器・核発電所の完全撤去」「正義と人間の尊厳が保障される地域社会の回復」「離散家族の訪問」「非武装地帯の平和エリア切り替え」などを盛り込んだ。

総会代議員会はこの声明を「大多数の賛成(Consensus)」として承認した。WCC総幹事は声明通

過後の記者会見で、「朝鮮半島の分断は、南北の問題だけでなく、全世界の問題であると考えており、WCCも分断を克服するために協働したい」とし「北朝鮮の教会が韓国の教会と交流し、WCCのメンバーとして働くことができるように願う」と表明した。

WCCはこの日の午前、「平和」をテーマとした全体会議を開き、教会は平和運動に直接乗り出さなければなら理由を集中的に議論した。

WCCは、8日の委員会報告と閉会と最終報告、閉会礼拝を持って10日の総会日程を終えている。

チェ・スンウク記者 100sh@kmib.co.kr

WCC準備委員会代表大会長 朴大統領を支持し、国連の対北経済制裁に賛成を表明 閉会式で、WCC朝鮮半島声明を正面から批判

『NEWS N JOY』2013年11月9日 <http://p.tl/Sjtz>

ギム・サムファン牧師(WCC韓国準備委員会代表大会長・ミョンソン教会)が、世界教会協議会(WCC)の声明に反対の立場を表明した。

WCCは、国連の北朝鮮経済制裁の解除を要求し、朝鮮半島の平和を求める声明を発表したが、11月8日、釜山ベクスコビジネスホールで行われたWCC総会の最後の全体会議で、ギム牧師は、国連の北朝鮮経済制裁を支持し、朴大統領を支持すると述べた。

WCC韓国準備委員会代表大会長の立場で壇上に上がったギム牧師は、その発言時間のほとんどを、WCC釜山総会の成功のために支援した人々をの使命を挙げて感謝することに割いた。その感謝は約7分間に及んだ。その後彼は、各教会から派遣されたWCC総会代議員にいくつか申し上げたいことがある、と続けた。

ギム・サムファン牧師はまずこう語った。「韓国教会は、大韓民国政府と朴大統領の自由民主主義に立脚した偉大な統治を完全に支持して祈る」そしてそれに続けて、「国連の北朝鮮制裁決議は、適切かつ優れた決定である。韓国の教会は、国連決議を尊重する」と述べた。彼は、北朝鮮が一日も早く開放され抑圧から脱して、主のもとに帰って来ることを切に祈る、と付け加えた。

会場にいたWCC代議員は慌てた様子であった。前日の7日、同じ場所で代議員は、国連の北朝鮮経済制裁の解除を要求しようと決意したのである。しかし、WCC準

備委員会を代表する人物が、WCCが採用された公式声明を正面から反論したのだ。

WCC釜山総会で正式採用された「韓半島の平和と統一に関する声明」には、国連の対北朝鮮決議案を批判し、韓半島の平和を必要とする内容が盛り込まれている。もう少し詳しく調べてみるとこうだ。

「我々は、国連安全保障理事会が、韓半島の平和のために新たな取り組みを開始し、北朝鮮の既存の経済制裁や金融制裁を解除するよう各国政府と協力する」

「経済制裁は、結果的に、一般の国民を、特に、貧しい人々を、処罰するための手段となる。したがって、我々は、北朝鮮に対する経済制裁の戦略的な効果だけでなく、倫理的な原則においても、経済制裁の措置に疑問を提起する」

会場にいた代議員は、ギム・サムファン牧師の発言に衝撃を受けたと語った。特に韓半島平和協定と声明の作成に心血を注いだ韓国代表が落胆したという。彼は、韓国準備委員会代表大会長が大会を終える挨拶で総会決議を覆したことを、礼儀と常識に合わない行動だと批判した。また、朴大統領の支持発言は、明らかに突然なことであり、全ての聴衆の耳に「政治的な発言」として聞こえただろう、と述べた。

韓国キリスト教長老会総幹事ベ・テジン牧師も、強い不満を表示した。彼は「ギム・サムファン牧師が、北朝

鮮の経済制裁に苦しむ北朝鮮の兄弟のための WCC の人道主義的決断を、一言の言葉で汚染させた」と批判した。同牧師はギム・サムファン牧師の発言について、それは「生命の神よ、私たちの正義と平和に導いてください」という WCC 釜山総会のテーマと、そして韓半島の平和を念願する WCC 代議員を裏切る発言だと批判し、全く情けないと語った。

WCC 準備委員会代表ギム・サムファン牧師は、自らの発言は保守教会の立場も代弁するために事前に準備したものだとして説明した。朴ジョンファ牧師（WCC 準備委員会委員）は、去る 11 月 7 日、WCC が承認した「韓半島声明」が北朝鮮を一方向的に支持するものではないか、とす

る、一部政府関係者と保守教会の批判があったことを明らかにした。この批判を受けて、ギム・サムファン牧師は、「WCC は共産主義を容認する左派である」という無駄な誤解をなくすために、WCC 声明のバランスを取る発言を個人的にすることにした、という。

朴牧師は WCC 「韓半島声明」にも対北経済制裁解除のために北朝鮮がふさわしい措置を取るという内容が盛り込まれていたことに注目する。彼はギム牧師の発言が WCC 声明と矛盾することがないと語った。つまり、WCC が語る対北朝鮮経済制裁の解除の声明に沿って、ギム・サムファン牧師の発言は北朝鮮の先行措置に重点を移しただけのもので、と主張した。

WCC 宣教分科会長「宗教多元主義の疑惑は誤解」

ミッションステートメント作成責任者に聞く
「WCC 反対者は、今回の声明しっかりと読んでほしい」

ニュース・アンド・ジョイ
2013年11月08日(金) 15:58:56
<http://p.tl/LCHz>

宗教多元主義は、世界教会協議会（WCC）をめぐる古い論争の一つである。4 日、WCC が 30 年ぶりに発表した新しいミッションステートメントについて、今回の総会を積極的に反対してき崔ドクソン教授（ペヌエル神学校総長）は、「福音の宣言はなく、宗教多元主義と万民救済主義的主張を盛り込んだ異端的文書だ」と批判した。

この 4 年間でミッションステートメントの作成に傾注した Geevargjese Mor Coorilos 司教（インド）は、WCC が宗教多元主義を追求するという主張を一蹴してこう述べた。「ミッションステートメントを正しく読んだ人なら、WCC が宗教多元主義であるとは言わないだろう」。同司教は、シリア正教会に所属し、Niranam の大主教であり、WCC 世界宣教と伝道委員会（CWME）議長である。

去る 11 月 6 日釜山総会現場で同司教にインタビューした。

— WCC 大会期間中会議場周辺では、WCC への反対集会が続いた。反対者たちの間では、WCC が宗教多元主義を目指しているとの批判が大きい。どのように考えるか。

WCC 反対者たちとは何度も会った。私は彼らの宗教的自由に関する主張を理解し、尊重する。しかし、WCC が宗教多元主義を目指すという主張に、私は同意しない。反対者たちは WCC が聖書とイエスを否定すると考えている

ようだ。WCC 規約に見れば明確に示されている。私たちは、聖書とイエスを基本としていると、WCC 規約には、はっきり書いてある。

— 反対者たちは WCC が他の宗教を信じている人や宗教がない人も、救いを受けることができると主張している、としている。

大きな誤解だ。イエス・キリストを信仰する教会だけが WCC に所属することができる。信念と教義の違いはあるだろう。しかし、イエス・キリストを信仰するという考えは一つだ。WCC は、ただイエス・キリストを通してのみ救われることができると告白する。私個人もそのように考えており、これまでにもそのように主張してきた。

WCC は、多くの教会の連合である。誰もがそう思うのかは分からない。個人的にイエス・キリストを救い主として告白しなければ救いを得ることができると考えている。WCC に参加するほとんどの人々がそのように考えるだろう。

WCC は他の宗教と交流することは、対話と協力のためだ。宗教が違うとして会話さえしなければ、どのように救いの問題を語ることができるだろうか。救いはイエス・キリストを通して得る。ただし、我々は他の宗教を信じている人や宗教がない人々を非難しない。

外から WCC 反対運動をする人々は、聖書を左手に置いて、右手で人に向かって「サタンよ、退け」と叫ぶ。果たしてそのような行動が聖書的なのか。そうした人々は、確かに「自分はクリスチャンだ」と主張するが、その行動はクリスチャンではない。

—「救い」という用語をどのような意味で受け入れるか。

私たちは、イエス・キリストが救いである、という救済論を持っている。ただし、他の宗教に救いがあるかどうかについては、何も述べていない。全能の神のなさることに、私たちが知らないことが多い。他の宗教を信じている人や宗教のない人を神が救う、などと、私たちは、確信することはおろか、知ることも、できない。クリスチャンができることは「イエスが救いだ」と宣言することである。他のことは、神に任せなければならない。

他の宗教と協力することは、環境、貧困、暴力などから、神の創造の世界を守るために必要だ。宗教が違う人とも共通の目標をたくさん持つことができる。救いの問題とは無関係に、神の善を他の人々と連帯していくことが、救われた人の行動だと思う。

聖書をただ文字面でのみ受け入れる人が多い。聖書が語る内容を理解し、心に受け入れなければならない。私たちは、明らかに聖書の神を私たちの神と考え、イエス・キリストを救い主として考えている。WCC が宗教多元主義であると主張することの背景には、長い間醸成された誤解が作用している。いつかそのような誤解をなくすことをしたいと思う。

— WCC は伝道を禁止するのは？

(笑) 私が住んでいるインドにキリスト教を信じる人は 3% にしかならない。私はヒンズー教を信じる人々や宗教のない人にイエス・キリストを信じるように説教して伝道をしている。WCC に集まった多くの人々が福音を宣べ伝え、伝道している。

WCC の最大の目的は、多くの教会の一致と団結である。教会が集まって一つの目的のために同じ言葉を出そうとするものである。もちろん、理念と教理が異なるため、完全な一致は達成し難い。しかし、愛、平和、正義は、誰でも同意できる神の御心である。その共通の目標の中で一致を達成することができる。これは私の考えではなく、聖書に記載されている内容である。私たちは、聖書に基づいている。

むしろ、クリスチャンが神を信じていない誰かを「蛇」「サ

タン」と罵ることは、真の福音の姿ではない。信じない人のために祈り、語りかけるのがクリスチャンの姿勢だ。語りかけ、対話をして、この問題を解決しなければならない。なぜ対話もせずに、自分の信仰だけを強要するのだろうか。

—イエス・キリストを信じれば天国に行き、信じなければ地獄に行くと思いますか。

それはわからない。明らかなのは、我々は、イエス・キリストを信じており、そのような信仰を分け与えなければならない、ということだ。神は愛する子供たちを非難したり地獄に送るために来たのではなく、救うためにこの世に来られたのだ。

— 反対者たちは西洋の教会の崩壊の原因を WCC と自由主義神学に見ている。

WCC への反対者が「WCC は教会を殺す」という表現をしているのを見て、率直に、衝撃を受けた。反対者たちは、自分たちが思っている福音だけが正しいと思っている。片手に聖書を持って、人を悪魔と叫ぶ。もし私がヒンドゥー教徒であったなら、そのようなキリスト教は信じないだろう。

どうか、一緒に話し合いながら誤解を解いてほしい。WCC は、教会を殺すことではない。むしろ迫害を受けたり、世俗化されている世界の教会のために、共に闘争して正義を叫ぶ。

—最後に語りたいことは？

新しいミッションステートメントは、30 年ぶりに出てきた。20 世紀とは異なり、今では西洋文明の世俗化が急激に進んでおり、アジアやアフリカ、南米などのキリスト教の中心地として浮上している。インターネットと SNS (ソーシャルネットワーク) の発達で生活環境も変わった。このような時代状況と変化をミッションステートメントに反映しようとした。福音宣言と聖霊の活動内容も、ステートメントの文面に浮き彫りにした。WCC に反対する人々には、新しいミッションステートメントを正しく読むよう、要求したい。そうすれば、多くの誤解が解けるだろう。

李ギュヒョク leegyuhuk@newsjoy.or.kr

「我々WEAは、WCCとの協力関係にある」

世界福音同盟が明らかに

「国民日報」013.11.04 22:12 <http://p.tl/WUvc>

世界福音同盟（WEA）神学委員長であるトーマス・シャーマッハー牧師は11月4日午前、釜山（プサン）BEXCOを会場として開催されたWCCの全体会議で「WEAとWCCはお互いに礼儀を尽くして親しく話し合う関係だ」と言いながら両団体の連帯感を強調した。

WEAは、来年10月に韓国で総会を開催する予定である。彼は「WEAは1846年、教会の連合と人権、特に当時大きな問題であった奴隷解放、福音の伝道、そして宗教の自由のために設立された」とし、「WCCとはすべての会議に相互に参加して深い理解を持っており、今日発表された宣教文書で強調している非倫理的伝道問題についても共感する」と明言した。

シャーマッハー牧師は、会場周辺で行われているWCC反対集会に触れ、来年の韓国総会開催を主導するはずの韓国キリスト教総連合会（CCK）も、この反対集会に参加している可能性があることに、強い関心を示した。彼は全体会議直後、記者に対し、「CCKが反対集会に参加したことが確認された場合、（来年の総会に関連して）深刻な結果をもたらすことになる」とし、「現在は、正確な情報がない中で、CCK側から反対集会とは無関係だとの回答を受けた」と明らかにした。

シャーマッハー牧師はこの日午後の記者会見でも、

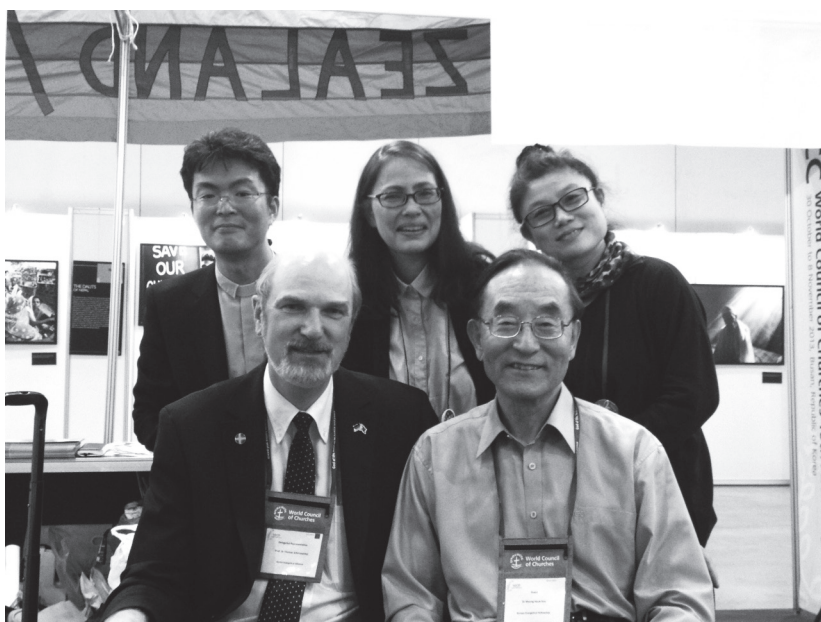
CCKとWCC反対集会の関連性について、WEA総務が事実関係を確認中だと明らかにした。しかし彼は「CCKはWEAと正式な協力関係にあり、その関係は今も変わっていない」としながら「韓国は今、WCCで注目されているだけに、今後の教会の連合のためにも韓国のクリスチャンと仕事を一緒にしたい」と述べた。

WCCとWEAの違いを問う質問に、シャーマッハー牧師は、「お互いにプラスの面を見ながら協力している」と答え、「加盟国ごとに歴史的背景と状況が異なるが、50カ国では、WCC登録教会とWEA登録教会が重なり合っている」と説明した。

CCK「これはWEAの公式立場ではない」と表明

一方、CCK海外担当でWEA東アジア本部代表のイ・ジョンウォン牧師は「CCKはWCCに反対している」と答え、「WEAに対して、CCKがWCC反対集会と関係がないという回答をしたことはない」としながら「シャーマッハー牧師の発言は、WEAの公式見解ではないとWEAの広報部を通して表明した」と明らかにした。

釜山 = ギムジバン記者 fattykim@kmib.co.kr



前列左がシャーマッハー師

釜山でのご厚誼を感謝します。私は今、WCC 総会での良い思い出を反芻しながら日々を過ごしています。とりわけ、金博士とシューマツハ博士との会議が私たちのブースで行われたことは、大きな思い出になっています。そして、その会議の中で、韓国の福音派を代表するとされる CCK という団体と反 WCC 運動との関係について、私に調査をご依頼頂きました。

私は、韓国の福音派と反 WCC 運動との関係について、韓国人の友人に情報を求めました。そして、以下のウェブサイトに行き着きました。

<http://goo.gl/31zbGI>

このウェブサイトにある写真は、見る人すべてを嫌な気分させるものだと思います。それでも、そこに書いてある事柄を御紹介して、韓国の友人たちのご助力に感謝の意を表したいと思います。

このウェブサイトの記事は、そのタイトルを「ホン・ジェ Chol 師は、WCC を乞食と呼ぶ。経済的なノマドとして、お金を稼ぎに韓国へ来たのだ、と。」とつけています。以下に、その内容を要約します。

1. このページの最初に掲載されている写真の人物は、「アンチ・キリスト」というたすきをかけています。この人が、ホン牧師であり、韓国の福音派教会の団体「CCK」の代表です。この写真の下には、次のようなキャプションが付いています。

「10月30日、WCC釜山総会が開幕したその日に、反WCCの大きな集會が持たれた。集會の後、CCKはこの集會を支持するデモ行進を行った。」

2. 記事の内容は、以下のように要約されます。

- (1) 反 WCC 集會に集まった人数は、約 3000 人。
- (2) 参加者は CCK の 57 の教派から集まった。その教派のほとんどは CCK のメンバーチャーチであった。
- (3) 反 WCC 集會への参加者は、WCC がシンクレティズムに立ち、ホモセクシャリズムを擁護し、共産主義を容認すると、主張している。
- (4) 大韓イエス教長老派教会をはじめとする主な大教団は、公式に、CCK が主導するこの反 WCC 運動への支持は絶対にしないと決定した。
- (5) 集會には、870 人の神学生と神学校教師が参加した。この人々は、「反 WCC 声明」を発表した。この声明文は以下のように主張している。
 - a. WCC は聖書が神の言葉であることを否定している。
 - b. WCC は三位一体論・キリスト論・救済論・教会論の正統な教義を否定している。
 - c. WCC は国際會議を開催するにあたり、キリストではなく WCC 自身をかしらとする會議を追求している。
 - d. WCC は「宗教間対話」を隠れ蓑とした「宗教的多元主義」を追求している。
 - e. WCC は聖書ではなく自分たち自身の合意に權威を置いている。

(6) ホン師の主張はこうである。「WCC は資金難に陥ったので、たくさんの献金をするクリスチャンがたくさんいる韓国に来て、お金を稼ぐつもりなのだ」

(7) ホン師によって率いられたデモ隊は、会場である BEXCO の前で、警官隊に阻まれ、行進を諦めざるを得なかった。

私の要約は以上です。

以上に加えて、二つのウェブサイトを紹介します。

1. <http://goo.gl/01SsL8>

この問題を扱った英語のホームページです。

2. <http://www.cck.or.kr/>

CCK のホームページです。

私が申し上げるべきことは以上です。私たちは今、韓国の教会と世界の福音派の兄弟姉妹のために再び祈り始めるべき時にあるのだと思います。そして私は、世界福音同盟が立ち上がり、WCC 釜山総会で取り扱おうと試みた事柄を引き継ごうとされていることを知り、大きな勇気を覚えています。神様の御業に参画するためには、連帯が必要です。ご存知の通り、この地球には多くの痛みがあります。放射能汚染は、その一つの例でしょう。今私たちは皆で叫び声を上げているのだと思います。たとえばその声は、「核から解放された世界へ脱出したい・出エジプトの出来事をもう一度！」という叫びかもしれません。そして私は今思い出しています、「私の父はいつも御業に勤しんでいる。だから、私も働くのだ」というイエス様の声を！

Faithfully yours,

Rev. Dr. Naoya Kawakami

Gen. Sec. of Touhoku HELP

touhokuhelp.com

アジアと宗教の可能性

第十回世界教会協議会（WCC）釜山総会に参加して

日本基督教団仙台市民教会主任担任教師 東北ヘルプ（touhokuhelp.com）事務局長 川上直哉

本年 10 月 30 日から 11 月 8 日まで、韓国釜山において、世界教会協議会（WCC）第十回総会が開催された。世界中の教会から 825 名の代議員が出席し、その他参加者は 3500 名を数えた。この「その他参加者」として、東北震災への支援の感謝と福島放射能禍の現況を世界に発信するべく、筆者は 7 名の仲間と共に全日参加した。そこで学んだことは、世界の中の日本の課題であり、善意の限界であり、そしてアジアと宗教の可能性であった。以下に報告する。

1. 「世界教会協議会 = World Council of Churches (WCC)」とは

千年単位の歴史を経て、キリスト教はイスラム教・仏教同様、世界の広範囲へと伝播している。この伝播の中には人為的・戦略的に展開されたものもあった。日本で有名なのはキリシタン・バテレンの活動であろう。これは巨大なカトリック教会に対してプロテスタント勢力が蜂起した西欧の状況を背景に、カトリック側からの巻き返しとして、その信徒を新たに獲得しようとする運動であった。その後、黒船が来航する頃、プロテスタントもアジアおよび日本に信徒を獲得しようとする熱意を漲らせた。その時派遣された人々を「宣教師」と呼ぶ。

世界に版図を拡大しようとする熱意は、帝国主義の空気と一体化していた。そして世界大戦が二度も起こり、人類的な規模での反省に至った。特にアジア太平洋・アフリカの「植民地」から帰国した宣教師たちが、欧米のキリスト者に深い反省を促す触媒となった。そして 1948 年オランダで第一回 WCC 総会が行われた。これはプロテスタント側の反省の具現化であった。この運動に東方正教会も参加した。同様に、1962 年に第二バチカン公会議が開催され、カトリック側からの（更に徹底した）反省と刷新の運動が起こる。

このように、WCC の歩みは「植民地主義の反省」として確認することができる。そのように確認する時、今回の第 10 回総会の意味と今後の展望が拓けてくる。

2. 日本と WCC

日本にとって WCC は疎遠ではない。WCC は総会の他にも国際会議を開催しているが、その一つ「東北アジアの正義と平和会議」は 1986 年に静岡県御殿場で行われ、南北朝鮮の平和統一のために世界の教会が取り組む行程案

を策定した。その成果は「東山荘プロセス」と呼ばれ、現在も国際的連帯の一端を担っている。

過去、日本は、WCC と WCC に統合されて行く世界運動に、積極的に関与してきた。1948 年以來 7 年毎に行われた WCC 総会に日本人は中心的な役割を担い、第三回総会の開催地として東京が名乗りを上げ（結果はインドとなる）、1920 年と 1958 年には世界キリスト教教育大会を東京で開催している。特に 1958 年大会においては、主催国としてこれをアジア諸国への謝罪表明の場とすべく活発な国内募金を行い参加者を迎えた。

1954 年に米国において行われた第二回 WCC 総会において、日本の教会は重要な役割を果たした。時まさにビキニ水爆実験による第五福竜丸事件が起こったばかりであった。日本代表団は日本から原水爆禁止の署名三万四千を集めて持込み、熱心に総会参加者を説得し、遂に「核兵器の禁止」を世界教会の名において宣言させるに至った。

そして今回の第十回 WCC 総会があった。筆者は福島原発爆発事故の現実を訴え、全ての核エネルギーへの否を世界教会として表明するよう働きかけを行った。その運動は 2012 年 9 月の仙台から始まり、日本・韓国・台湾・ニュージーランドを核とする世界的連帯を生み出し、「核から解放された世界を目指す決議文」を総会本会議に上程、採決を迫るに至った。本会議は議長による異例（異常？）の議事運営と、英国保守党国会議員でもある代議員の反対演説等があり、決議文を継続審議事項とした。その決定の際、議場は地鳴りのような苛立ちの声に騒然となっていた。

3. 悲劇の博覧会・善意の限界

継続審議となった決議文は、世界教会の状況を良く示すものとなっていた。第一に、この決議文は「アジア太平洋」を主題としていた。第二にそれは、太平洋に展開する米軍

基地（沖縄を含む）の生み出す悲劇への言及と共に原発問題を論じるものとなった。

キリスト教会の現状は、欧米からアジア太平洋・アフリカへと、その中心を移しつつある。中心が移りつつあるこの地域は、多様な文化宗教の坩堝であり、成長と活気に漲り、紛争と混乱の渦中にある。その中で、「福島原発事故」は、霞む。難民・貧困・誘拐・小児売春・大規模環境汚染・民族紛争・宗教迫害・巨大災害そして政治的腐敗。これらが剥き出しになっているのが、アフリカであり、そしてアジア太平洋である。そこでもし「自分たちの問題を！」とだけ熱心に訴えるならば、他の問題解決を阻害することも在り得る。それ程、問題が溢れ返っている現場に、今、世界教会は向き合っている。

WCC 会場には広大なブース展示場が設営され、世界中のキリスト者の奉仕活動の様子が紹介されていた。それは、さながら「悲劇の展示場」の様を呈した。筆者もニュージーランドと共同で「災害における教会の役割」を主題とするブースを展示し、本年8月の福島第一原発爆発事故現場付近の様子を録画してビデオ上映した。筆者のブースの目の前は、国連による難民の写真展示となっていた。そこに映る難民の厳しい眼差しに見詰められながら、考える所は多かった。被害者が互いに足を引っ張り合うようではない。他の問題を自分の問題とできる、自分の問題を他の問題の中に見出して頂ける、そういう言葉が、必要だ。それが無いから、私たちは負ける。ただの善意には、限界がある。一個の善意を超える広がりを得なければ、善意の運動は、必ず負ける。

実際、厳しい緊張の中で決議文は作られた。基地の問題は喫緊の課題である。連日、世界のどこかの基地で悲劇が起こる。その犠牲者に連帯することを表明しなければならない。しかし、フクシマの問題もある。緊張感あふれる会議中、まず、基地の問題を訴える人々が原発の問題を訴える人々に宣言文の標題を譲った。そして宣言文の内容に、基地の問題が明記されることになった。原発を訴えた人々は、総会内プログラムにあった基地の問題を訴えるワークショップに大挙して参加し、感謝と連帯を表明した。こうして決議文は作成され、そして今、その決議文は来年7月に行われる再議論の時を待っている。

4. アジアの可能性・宗教の可能性

WCC において、筆者はアジアと宗教の可能性を学んだ。アジアの可能性は「顔と礼」でつながるコミュニケーションにある。基地と原発は、論理的には全く別の議論となる。しかし、それぞれの問題を担う人間の顔が繋がる。譲り譲られる中に恩義と礼節が生まれる。それはアジア的文脈に

おいては連帯の靱帯となる。多様性に溢れるアジア太平洋・アフリカにおいては、この種の連帯こそ求められるものとなる。

「核から解放された世界を目指す決議文」は採決に至らなかった。同様に WCC と前後して行われた世界宗教者平和会議世界大会においても、核発電所（原発）の非倫理性を明言する声明の発表は、日本側からの強い要望にも関わらず、見送られたという。

そして筆者はまた被曝地フクシマの現場に戻った。可能性はこの現場にある。「原発と原爆は違う」「もっと科学的な検証を」「経済的発展の阻害だ」といった意見がある。しかしそれらの意見は、被曝の現場において消え去る。現場で呻吟する人々の存在は、机上の空論を雲散霧消させる。その呻吟に寄り添い、不安の中を歩む人々の人生に伴走すること。その為の希望を探し、絶望に抵抗すること。それが我々宗教者にはできる。だから我々は粘り強く声を上げ続ける。世界の良心と善意は、決して眠ってはいない。それらが動き出すまで、我々は現実の困難を乗り越え続ける。そこに、宗教の可能性が示されると信じて。

以上、第十回 WCC 釜山総会で筆者が学び取った一端を示した。



この文章は、『中外日報』紙2013年12月19日号に掲載されました。



支援金・献金の受付口座

【郵便振替】

02290-8-136273

特定非営利活動法人 被災支援ネットワーク・東北ヘルプ

【他金融機関からの振込口座】

ゆうちょ銀行 二二九店 当座預金 0136273

Touhoku HELP

〒980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2F E

TEL./FAX. 022-263-0520

URL : <http://tohokuhelp.com>

MAIL : sendai@tohokuhelp.com